

2019 日本冒険フォーラム

新たな自分の発見

～植村直己の精神をつなぐ～

世界初の五大陸最高峰登頂や北極点犬ソリ単独行など、厳しい自然と向き合いながらもその困難に挑戦し続けた植村直己。そのチャレンジ精神を後世へ語り伝え、一度限りの人生、限られた命を輝かせることの大切さを考える日本冒険フォーラム。ともに集い、語らい、全国の冒険者、チャレンジャーにエールを送りましょう。

©文藝春秋

日時

2019年11月17日(日)

13:30～16:55(受付開始10:00～)

会場

明治大学

駿河台キャンパス(お茶の水)内
アカデミーコモン アカデミーホール及びロビー
東京都千代田区神田駿河台1-1(JR中央線 御茶ノ水駅下車3分)

プログラム

13:35～ プレゼンテーション
「豊岡の挑戦」～Local & Global～
中貝 宗治(豊岡市長)

13:55～ 植村直己記録映像上映
「素顔の植村直己
～夢果てしなく 愛かぎりなく～」

14:15～ 基調講演
「人類を進化させた冒険の精神」
山極 壽一さん(京都大学 総長)

15:00～ パネルディスカッション(出演者は裏面)
「挑戦し続けるこころ」



参加費

無料 (フォーラム参加には入場整理券が必要です)

展示 10:00～18:00

☆植村直己の足跡と植村の素顔展

11月11日(月)～17日(日)

植村の足跡や植村のエピソードを紹介

☆チャレンジャーたちのメッセージ展

11月17日(日)

チャレンジャーの夢メッセージと冒険の途中で撮影した写真を紹介

●入場整理券申込先

豊岡市立植村直己冒険館

〒669-5391 兵庫県豊岡市日高町伊府785

電話 0796-44-1515 / FAX 0796-44-1514

Eメール boukenkan@city.toyooka.lg.jp

●申込方法

①電話②FAX③はがき④E-mail⑤植村直己冒険館窓口のいずれかで、お名前(団体名)、ご住所、ご連絡先、参加人数をご連絡ください。

基調講演「人類を進化させた冒険の精神」

山極 壽一 (やまぎわ じゅいち)

京都大学総長

1952年、東京都生まれ。霊長類学者・人類学者。

京都大学大学院理学研究科助教授、教授を経て、2014年10月より現職。京都大学理学博士。日本霊長類学会会長、国際霊長類学会会長を歴任。アフリカ各地でゴリラの行動や生態をもとに初期人類の生活を復元し、人類に特有な社会特徴の由来を探っている。植村直己冒険賞選考委員。



パネルディスカッション／コーディネーター

神長 幹雄 (かみなが みきお)

1950年、東京都生まれ。大学卒業後、山と溪谷社入社。雑誌編集部を経て、『山と溪谷』元編集長。現在は出版部に所属し、多数の山岳図書の編集を担当。海外取材の経験も多く、個人的にも60カ国以上を旅する。2018年、志半ばで逝った冒険者ゆかりの地を訪ねて綴った「未完の巡礼 冒険者たちへのオマージュ」を上梓。日本山岳会会員。



パネルディスカッション／ゲスト

市毛 良枝 (いちげ よしえ)

1950年、静岡県生まれ。俳優。NPO法人日本トレッキング協会理事。知人に誘われた初めての登山が楽しく、自然の魅力にひかれてアウトドア全般に活動の場を広げる。以来、環境問題にも関心を深め、環境カウンセラーとしても登録している。前回の2015日本冒険フォーラムでもゲスト出演。



パネルディスカッション／メッセージ

黒田 征太郎 (くろだ せいたろう)

1939年、大阪府生まれ。イラストレーター。1969年、長友啓典氏とK2設立。1992年よりニューヨークにアトリエを構え、国内・国外で幅広く活動。1994年『野坂昭如／戦争童話集』映像化プロジェクト開始。2004年より「PIKADONPROJECT」を展開。2009年活動の拠点を北九州市に移し、ライブペインティングや壁画制作・絵話教室・ホスピタルアート等を精力的に活動している。



【後 援】

兵庫県、公益社団法人日本山岳会、日本航空株式会社、地平線会議、公益社団法人日本山岳・スポーツライミング協会、公益社団法人日本山岳ガイド協会、日本勤労者山岳連盟、NPO法人日本トレッキング協会、日本アドベンチャー・サイクリストクラブ、日本ヒマラヤ協会、日本ヒマラヤンアドベンチャートラスト、美津濃株式会社、株式会社石井スポーツ、株式会社モンベル、日本用品株式会社、株式会社好日山荘、デサントジャパン株式会社、株式会社エバニュー、株式会社文藝春秋、株式会社山と溪谷社、株式会社舵社、株式会社スイッチ・パブリッシング、株式会社ヨシダテント、株式会社ニコン、株式会社毎日放送、株式会社毎日新聞社、ワシオ株式会社、株式会社クロスプロジェクトグループ、明治大学山岳部伊辺会、公益財団法人植村記念財団・植村冒険館



来て、見て、感じる。植村直己のふるさと 兵庫県豊岡市

豊岡市立植村直己冒険館

夢に向かってひたむきに生きた
植村直己
その熱き想いを感じる空間へ
ぜひお越しください。

〒669-5391 兵庫県豊岡市日高町伊府785
電話 0796-44-1515 / FAX 0796-44-1514
Eメール boukenkan@city.toyooka.lg.jp



パネルディスカッション／パネリストの皆さん

山極 壽一 (やまぎわ じゅいち)

小松 由佳 (こまつ ゆか)

1982年、秋田県生まれ。フォトグラファー。高校在学中から登山に魅せられ、国内外の山を登る。2006年、「世界で最も困難な山」と称される世界第二の高峰K2(8611m / パキスタン)に日本人女性として初めて登頂。2006年植村直己冒険賞受賞。次第に風土に生きる人間の姿に惹かれ、草原や沙漠を旅しフォトグラファーを志す。2012年からシリア難民をテーマに撮影。シリアの男性と結婚、二児の母。



田口 亜希 (たぐち あき)

1971年、大阪府生まれ。射撃選手。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会アスリート委員。大学卒業後、郵船クルーズ株式会社に入社。旅客船「飛鳥」の乗員として世界中を航海。25歳のとき、脊髄の血管の病気を発症、車イス生活になる。退院後、友人の誘いでビームライフル射撃を始め、その後実弾を使用するライフル射撃に転向。アテネ、北京、ロンドンパラリンピックと3大会連続出場。2010年アジアパラ競技大会では3位、銅メダルとなった。



角幡 唯介 (かくはた ゆうすけ)

1976年、北海道生まれ。探検家、作家。早稲田大学探検部OB。2003年朝日新聞入社。2008年退社。以後、チベットで人類未踏の峡谷踏破や、北極圏で闇の世界を歩く極夜行など独創的な挑戦を行う。自然環境と狩猟文化に魅せられ、毎年のようにグリーンランド最北の村シオラバルクを訪れ、ハードな北極圏での旅をくり返す。探検行とノンフィクションをハイブリッドさせた作品を発表し続けている。



明治大学博物館で開催!!

植村直己語録×黒田征太郎イラスト原画展

植村直己さんが
イノチかけてつかんだコトバ

11月7日(木)～

12月17日(火)

10:00～17:00
(入場は16:30まで)

〈明治大学博物館〉

明治大学

アカデミーコモン地階

特別展示室

入場
無料

どんな事態に直面しても
あきらめないこと



©黒田征太郎